

# コンチェルト

Concerto

The 5th simc  
Volunteer News

Vol.5-8 (2013.9.20発行 第5回コンクール関連 第8号)

インタビュー **三宅 進氏** (仙台フィルハーモニー管弦楽団 ソロ首席チェロ奏者)

昨年秋に仙台フィルのソロ首席チェロ奏者に就任し、コンクールでは出場者の演奏をオーケストラの一員として支えてくださった三宅進さんに、コンクールのこと、これからの活動のことなどについてお聞きしました。

## 第5回仙台国際音楽コンクールのホストオーケストラとしてコンクールを経験した感想をお聞かせください

オーケストラ側も大変だということは聞いておりましたが、それより出場者のレベルが高いことに驚きました。予選から高いレベルの演奏家が出場して、審査を受ける彼らの方も大変だと思いました。そんなシビアな状況にもかかわらず、順位をつけられるのが嫌味に感じられないというか、ピリピリとした感じも無く、とても良い雰囲気だったと思いました。

そして次の審査に進めなかった出場者にも演奏の機会が提供されるということもすごく良いことだと思いました。最初は若い演奏家たちも躊躇していたようですが、すぐに前向きに学校やオープンスペースなどいろいろな場所で演奏してくれましたね。

これはボランティアの方たちの支え無しではありえないことだと思います。私もこのようなコンクールに関われたことを嬉しく思いました。

## コンクールで大変だったエピソードはありましたか

オーケストラ側で一番大変だったのは、両部門の指揮をしたパスカル・ヴェロさんでした。私たちも彼を支え、一緒に音楽を作る気持ちで演奏しました。

ヴァイオリン部門のファイナルの時に、「サラサーテ」という音楽雑誌の記者の方が取材に来ていたのですが、「オーケストラの一人一人が出場者を支えながら演奏している。こんなに温かい演奏は久しぶりに聴いたよ」と言ってくれました。そのことをヴェロさんに伝えたらとても喜んでくれましたね。

期間中、オーケストラのメンバーも大変でしたが、とても楽しんで演奏していて、私はいろいろなオーケストラで演奏しているのでわかるのですが、ホストオーケストラとしてこれだけの演奏ができるオーケストラは他には無いと思いました。

## 仙台に来ていかがですか

寅さんのように、いろいろな場所を歩き回って演奏している生活も嫌いではなかったのですが、そろそろ1ヶ所に腰を据えて演奏活動をしてみようと思っていた時に、仙台フィルから声をかけていただきました。仙台フィルの音楽に対するひたむきさを感じ、そして自分を必要としていただいていることも嬉しく思いました。



三宅 進

(略歴) 桐朋学園大学大学院研究科修了後、米国インディアナ大学にて研鑽を積む。帰国後群馬交響楽団首席チェロ奏者、イソ弦楽四重奏団チェリスト等を歴任。内外のオーケストラとも数多く共演。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団ソロ首席チェロ奏者、武蔵野音楽大学非常勤講師。

## 大学で指導もされていますが、学生はいかがですか

若い人たちは音楽に対して夢を持っていますが、自分の世界を作ってしまう、居心地の良い場所にしか行かない傾向があると感じています。軋轢や摩擦などを恐れずに、人の中で生きていく場所を増やしていけるような演奏家を育てていきたいですね。

## 音楽の次に時間を使うことは何でしょうか

今は忙しくてなかなか機会がありませんが、健康も兼ねてゴルフに行くことです。何よりゴルフは人との交流の機会にもなるので、それがとても楽しいです。

## 今後の演奏活動についてお聞かせください

オーケストラの活動はもちろんですが、個人的には「室内楽はいかが」というシリーズの企画を1995年から続けており、7月には仙台でもこのシリーズの演奏会を行ないました。近現代の曲もプログラムにいれていたのですが、集客は難しいと言われていたりもしましたが、当日は思いのほか多くの方に聴いていただけました。近現代の曲にはとても良い作品も多いので、回を重ねて皆さんに聴いていただければと考えています。

今後も年に1回開催できるかどうかのペースになると思いますが、世界中からいろいろな演奏家を招聘してこの企画を続けていきたいと思っています。

リハーサル後、お疲れの時間を割いていただき、ありがとうございました。

## 第5回仙台国際音楽コンクール 入賞者情報

第5回仙台国際音楽コンクールの入賞者が決まりました。

東日本大震災発生後、初めての開催となった第5回仙台国際音楽コンクールは、仙台市青年文化センター（現・日立システムズホール仙台）を会場として、5月25日から6月30日までの約1ヶ月間にわたり、開催されました。34の国と地域から申し込みがあり、予備審査を通過したヴァイオリン部門34名、ピアノ部門37名の最高レベルの才能を持った若者が仙台に集結、世界最高レベルの審査委員と3年ぶりのコンクールを心待ちにした観客（総入場者数8,749名）を前に、熱意あふれる演奏で聴衆を魅了しました。

コンクール期間中は、関連事業として仙台市内の会場及び小中学校で音楽をより身近に感じさせるコンサートが開催されました。

### <第5回コンクール入賞者>

#### ヴァイオリン部門

#### ピアノ部門

第1位  
リチャード・リン（アメリカ/台湾）

第2位  
成田 達輝（日本）

第3位  
富井 ちえり（日本）

第4位  
アンナ・サフキナ（ロシア）

第5位  
キム・ボムソリ（韓国）

第6位  
スリマン・テカッリ（アメリカ）

審査委員特別賞  
リ・ゼユ・ヴィクター（中国）

聴衆賞  
6/1 リチャード・リン（アメリカ/台湾）

6/2 アンナ・サフキナ（ロシア）

6/3 キム・ボムソリ（韓国）



第1位 リチャード・リン

第1位  
ソヌ・イエゴン（韓国）

第2位  
ソ・ヒョンミン（韓国）

第3位  
アルテヨム・ヤスィンスキイ  
（ウクライナ）

第4位  
ソナ・パク（アメリカ）

第5位  
片田 愛理（日本）

第6位  
ホン・ジファン（韓国）

審査委員特別賞  
ウ・ユツォン（中国）

聴衆賞  
6/22 浜野 与志男（日本）

6/23 児嶋 顕一郎（日本）

6/24 アルテヨム・ヤスィンスキイ（ウクライナ）



第1位 ソヌ・イエゴン

## 第5回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会開催！

第5回仙台国際音楽コンクール優勝を果たしたリチャード・リンとソヌ・イエゴンの二人が12月にコンクール会場に戻ってきます。あの感動をもう一度ご堪能ください。

### <リチャード・リン ヴァイオリンリサイタル>

ピアノ：ロバート・リン

2013年12月6日（金） 18：30開場 19：00開演  
ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ 第1番 二長調 op.12-1  
グリーグ／ヴァイオリン・ソナタ第3番 ハ短調 op.45  
サラサーテ／「スペイン舞曲集」から  
マラゲーニャ op.21-1  
ハバネラ op.21-2  
アンダルシアのロマンス op.22-1  
ホータ・ナバーラ op.22-2  
サラサーテ／ツイゴイネルワイゼン op.20

### <ソヌ・イエゴン ピアノリサイタル>

2013年12月14日（土） 14：30開場 15：00開演  
グレインジャー／R.シュトラウスの「ばらの騎士」終幕から  
愛の二重唱による散歩  
ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 op.109  
ラヴェル／ラ・ヴァルス  
リスト／シューベルトの歌曲によるトランスクリプション  
糸を紡ぐグレートヘン S558-8  
連奏 S562-1  
水によせて歌う S558-2  
魔王 S558-4  
シューベルト／幻想曲 ハ長調 D760 「さすらい人幻想曲」

会場：日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）コンサートホール

【全席指定】 S席：3,000円 A席：2,700円 学生：1,000円 2公演S席セット券：4,800円

【プレイガイド】 藤崎、仙台三越、ヤマハミュージックリテイリング仙台店、カワイミュージックショップ仙台、チケットぴあ[Pコード：209-153]、仙台市市民文化文化事業団（日立システムズホール仙台1階事務室）、イズミティ21（1階事務室）、河北チケットセンター 022-211-1189（平日 10時～17時）

【お問い合わせ】 仙台市市民文化事業団総務課 022-727-1875

## 特集 素顔の出場者たち -第5回の出場者を我が家に迎えた日々-

仙台国際音楽コンクールの大きな特長のひとつとなっている、出場者のホームステイ受入れボランティア。第5回のコンクールでも、29家庭のボランティアがコンクールを終えた若者達を温かく迎え入れました。今回はその中から、3家庭による出場者との心の交流をつづっていただきました。

### シン・スピンさん（韓国）、仁田原 祐さん（日本）受入れ：グリーブス裕香さん

今回初受入れの我が家には、ヴァイオリン部門出場者のシン・スピンさんとピアノ部門出場者の仁田原祐さんが来てくれました。偶然お二人とも普段自炊されている22歳の学生さん。変哲もないおかずでも食材や料理法についての質問や、色々な話に花が咲き毎日楽しい食卓となりました。

他の出場者の方々とも親しく交わり、それぞれ12泊と9泊のステイの間に地図を持たず出かけられるように。日本語が日々上達したシンさん、「また来るのだから」と観光地を巡るよりむしろ練習に励まれる中、ヴァイオリン部門出場者のマリヤ・クラスニクさんのホストファミリー西岡さん宅がすぐ近所で、食事を共にしたり、一度日帰りで行き、すっかりお気に入りの秋保温泉を西岡さんファミリー、マリヤさんと再訪、露天風呂に入っていて鹿を見たそうです！



左：仁田原さん 右：グリーブスさん

あちこちで花束を贈られ我が家を花一杯にしてくれた仁田原さん。福岡出身でももちろんソフトバンクファンの彼とKスタへ。2位争いをしてきたソフトバンク対楽天戦、ソフトバンクの圧勝（8-2）に本当に嬉しそうでした。野球少年だったそうですが、球場に足を運んだのは数年ぶりとのこと。それ以降、仁田原さんが楽天も応援して下さいているから首位を独走しているのでしょうか？

お二人とも「出場して本当に良かった。そしてすぐに帰らなくて良かった。仙台にきつと『帰って』来る。」と、帰られました。さらに研鑽を積まれるお二人を応援しながらその日を待つのも心楽しく、受入れさせていただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。



左から：裕香さん、西岡さん親子、マリヤさん、シンさん

### ナジェジュダ・ズィングルさん（ロシア）受入れ：鈴木つぐみさん

ナジャ（ピアノ部門出場者のナジェジュダ・ズィングルさんの愛称）が我家に滞在して5日目、お互い打ち解けてきた頃、一番触れてはいけないと思っていたことを、ナジャの方から切り出してきた。

ナジャが私の家で暮らしている。素敵な事実だが、その裏にはセミファイナルに進めなかったからという、残念な事実があった。ナジャの演奏は女性らしい細やかな表現力で、一音一音がハートの奥深くまで届く印象深いものだった。

正直、ダイナミックに鍵盤を弾く出場者が多い中、異彩を放っていた。「私、どこが良くなかったのか審査委員に聞いてみたの。私の演奏、もっとアクションを入れた方が良さそうよ」そう言って、鍵盤をバンバン叩く真似をした。「私にだって、同じことができるわ！でも先生からはピアノはハートで弾きなさいって教わっているの」私は「ナジャの弾くピアノ、大好きよ。多くの日本のファンもナジャを応援してくれているし。皆から愛されることが一番幸せよ」と伝えた。ナジャはにっこりしたが、半分冗談で「私、生まれ変わって、これからバンバン弾きのナジャになるから」と言うや否やピアノに向かい、ナジャらしくないパフォーマンスを見せてくれた。明るく振る舞っていたが、やはり心の中は相当葛藤があったのだろう。最後にこう聞いてみた。「ご両親はなんて言葉を掛けてくれたの？」「どんな時も、アイ・ラブ・ユーとだけ言ってくれるの！」私は涙が出そうになるくらい、心が温かくなった。



左：鈴木さん 右：ナジェジュダさん

### ウ・ユツォンさん（中国）受入れ：佐藤奈々さん

ピアノ部門出場者のウ・ユツォンさんのホストファミリーをお願いしますと事務局から連絡をいただいた時は、中国語は全く経験がなく、英語も堪能とは言い難い我が家では、喜びとともに緊張感も高まってきました。

17歳の彼は、人柄も良く、想像よりもはるかに気さくでユーモアがあり、すぐに打ち解けました。一緒にお買い物へ行ったり、バスケットボールの相手をしてくれたり、日本のアニメが好きでよく知っていたのでその話をしたりと、楽しい毎日が過ぎ、滞在の5日間はあっという間でした。



佐藤さん家族、ウさん（中央）

我が家には小学生の娘と息子がいますが、中国語を教えてもらったり日本語を教えたり、時にはTVゲームなどをして、言葉は通じなくても大変盛り上がりしていました。

ゆっくり仙台の名所などへ案内することができなくて残念でしたが、彼は帰国後間もなく、コンサートの予定もあったようで、観光よりも時間の空いているときにピアノを貸して欲しいと言って練習をしていました。

自宅でピアノ教室をしている我が家では、生徒さんたちの希望で度々ピアノを弾いてもらいました。間近でみる本物のピアニストの音は本当に素晴らしく、今まで経験したことのない貴重な体験となりました。

夢のように過ぎた滞在期間を終えてみて思う事は、世界共通語である英語をもっとよく分かるようになりたいということ、若き才能あるウ・ユツォンさんの今後の活躍に期待すること、そして次回もまたボランティアを通して素敵な出会いができれば、ということです。

## もうすぐ、せんくら！（仙台クラシックフェスティバル） コンクールボランティアのおすすめ公演

### ●仙台から世界へ羽ばたいた音楽家の凱旋～津田裕也さんの多彩な音色に酔う

第3回仙台国際音楽コンクールピアノ部門の優勝者で、仙台市出身のピアニスト津田裕也さん。今年の"せんくら"は、多彩な公演が揃っています！室内楽やオーケストラとの共演も多い津田さんですが、純粋な音色を楽しむのであればソロ公演を聴きたい！というのが本音です。

今回ソロで聴かせてくれるのは、メンデルスゾーンとショパン。美しいメロディと津田さんの端正な音との融合がどのような世界に誘ってくれるのか・・・楽しみで仕方ありません。

個性の融合から紡ぎ出される音楽が楽しめるデュオ公演も充実。コンクールでヴァイオリン部門の審査委員を務めた堀米ゆず子さんとのステージでは、ブラームスとフランクのヴァイオリンのソナタを演奏します。堀米さんとは何度も共演しており信頼も厚い津田さん。お二人の個性が奏でる2つのヴァイオリンソナタ、かなり濃密な1時間になりそうですね。

演奏会やCDなどでもおなじみ第2回コンクールヴァイオリン部門優勝者、松山冴花さんとのデュオ公演では親子で楽しめるコンサートにも挑戦！小学校での演奏活動なども行っている二人が、耳なじみのある曲をどのように彩って子どもたちに届けてくれるのか楽しみです。

毎年せんくらに出演され、地元仙台での演奏会を大切にしてくださっている津田さん。回を重ねるごとに洗練され、深みを増していく一人の音楽家の演奏を聴くことは贅沢な楽しみ方の一つですね。

### ●クラシック×電子音楽の融合～エレクトーン奏者の第一人者、神田将さんの熱い音色を聴く

"せんくら"では普段なかなかお目にかかれぬ珍しい楽器も登場します。クラシックコンサートの枠にとらわれない様々な音楽の世界を楽しみたいですね！

エレクトーン奏者の神田将さんは、公式ブログでも語られているとおり、国内外で年間230公演もの演奏活動を精力的に行っている方です。私が神田さんの演奏に触れたのは、2010年の"せんくら"が初めてでした。クラシックのみならず、日本の童謡や映画音楽なども取り入れた幅広い曲を楽しんだなか、最も印象的だったのが、シベリウスの重厚な「フィンランディア」。エレクトーン1台から発せられる、オーケストラが奏でるような厚みを持った音に衝撃を受けたことが今でも忘れられません。

エレクトーンという楽器が好きで、その奏でる音の多彩さ、面白さをより多くの方に知ってほしいという、神田さんの熱い心意気をひしひしと感じた公演でした。

今回は4公演ありますが、どの公演も大人気で"せんくら"のチケットが発売された7月に売切れてしまった公演もあるほどです。興味を持っていただけた方は、ぜひお早めにチケットを購入されることをお勧めします！！

### ●私の仙台クラシックフェスティバル2013

震災後に仙台に移り住んで早2年、"せんくら"への参加も今年で2回目です。昨年は、プログラムのバラエティの豊富さ、そしてなにより一流のアーティストが勢揃いしているのに、お値段の安さにただただ驚くと同時に感動しました。さて、そんな私が楽しみにしている今年の"せんくら"オリジナル企画は、「No.17 華麗なる歌ガラコンサート」、「No.50 《ピアノフェス！》」、「No.83 やっぱり せんくらは第9でグランド・フィナーレ」等で、是非とも聴いてみたい演目です。

この他に、私が魅力を感じているのが「No.8 三船優子と過ごす0歳児からのピアノ！ディズニーから華麗なるクラシックの小品」。人生で初めてのクラシックコンサート体験となる赤ちゃんや子どもたちが、いったいどんな曲に反応して喜ぶのかがとても楽しみです。あとは、ひたすら大好きなアーティストのプログラム。"せんくら"初登場となる林美智子さんのメゾソプラノ、舘野泉さんのピアノ、堀米ゆず子さんのヴァイオリンと津田裕也さんのピアノのデュオ、川久保賜紀さんのヴァイオリンと横山幸雄さんのピアノのデュオなどなどです。行きたいコンサートの公演時間が重なってしまうものがあるのが残念です。

私にとって、今年のせんくらのとっておきは、「音楽と絵本朗読や絵画とのコラボレートの企画」で、大変期待しています。

「No.70 ピアノと絵画で楽しむコンサートMUSEUMUSIC ～音楽と絵画の素敵な関係」では、どのような絵画や音楽が登場するのでしょうか？絵画も大好きな私は、いまからとっても楽しみです。

私も、東日本大震災からの復興に対して「音楽とともに、前へ」進んでいけたなら・・・。いまから、10月がとっても楽しみです。

### ♪ 編集後記 ♪

コンクールが終わっても、ボランティアの心は熱いまま。それを形にして、多くの人と感動を共有できるよう努力を続けます。  
(岡)

仙台国際音楽コンクールから仙台クラシックフェスティバルへ。芸術と芸術を愛する人々でいっぱい仙台に移り住むことができている嬉しいです！(kuri)

「せんくら」の魅力をお伝えしようと思案しているはずが…いつの間にか、演奏会のハシゴ計画になることが多々(笑) (松)

一陣の風を起こし、感動を呼び、駆け抜けていったコンクールの出場者たち。過ぎてしまえばうたかたの夢の如く。この一期一会の音との出会いと感動をひとりでも多くの人に伝え、次なるステップへとつなげるべく広報一同思索の旅がまた始まります。  
(吾)

昨年、初めてSIMCのボランティアに参加、この1年無我夢中で活動してきました。コンクールを目指しての活動、開催中の活動等に縁り、いろいろな、出会いと感動を得ることが出来ました。(清)

生まれて初めて「チェロ」という楽器に触らせてもらいました。予想外の軽さにびっくり。チェリスト三宅進氏のユーモアと含蓄を細かくお伝えできないのが残念です。これからの演奏や活動を通してその人となり新たな音楽ホールへの強い希求と情熱を少しでも理解し分けてもらえたらと思います。(三)

これから芸術と食欲の秋！夜中にお酒とお菓子のビデオ芸術観賞する愉しみを覚えてしまい、身体に良くないと思いつつ、たまった録画とお菓子のダブル消化に励んでしまいそうです。(川)



10/4(金)・5(土)・6(日)  
sencla.com

発行：第5回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市民文化事業団コンクール推進課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: http://www.simc.jp/